

2020 年度教育研究活動報告用紙 (様式9)

氏名 マルコム ロス スワンソン	職名 教授	学位 大学教育部大学院修士課程
---------------------	-------	-----------------

研究分野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研究課題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>● English Extension I</li> <li>● English Extension II</li> <li>● English Extension III</li> <li>● 専門演習</li> <li>● 卒業研究</li>   <li>● 前期               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語ディスカッション I</li> <li>○ エリア・スタディ I (2A &amp; 2B)</li> <li>○ メディア英語 I</li> <li>○ 英語コミュニケーション I</li> <li>○ 英語プレゼンテーション I (2A &amp; 2B)</li> </ul> </li> <li>● 後期               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語プロジェクト II</li> <li>○ メディア英語 II</li> <li>○ 英語コミュニケーション II (1a &amp; 1d)</li> <li>○ 英語プレゼンテーション II (2A &amp; 2B)</li> <li>○ 地域プロジェクト</li> <li>○</li> </ul> </li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名 【英語プレゼンテーション I, II】 Because of the sudden switch to online classes, this course had to be completely rewritten. Using our “My Study” Moodle website, I created materials for the students to self-access so that they could learn the skills they needed. These included videos, quizzes, and online assignments. Most classes would begin with an introduction on Zoom, then the students would work on the activities in breakout rooms. At the end of class, the students would share their work. This system worked very well for these classes.

急遽、オンライン授業に切り替えたため、このコースは完全に計画し直す必要があった。Moodleの「My Study」というサイトを使い、学生が自分でアクセスして必要なスキルを身につけられるような教材を作成した。教材には、ビデオ、小テスト、オンライン課題などが含まれている。ほとんどのクラスは、Zoomでの自己紹介から始まり、その後、生徒たちはブレイクアウトルームでのアクティビティに取り組んだ。授業の終わりには、生徒たちが自分の作品を共有した。このシステムは、これらのクラスでは非常に効果的であった。

授業科目名【エリア・スタディ I】

This course has the same evaluation as “English Presentation” because it faced the same issues of suddenly converting to online learning.

このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。

授業科目名【英語ディスカッション I】

このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。

In addition, in this class we focused a lot on collaborative preparation of materials, especially presentations. This proved to be a feature of this course.

また、このクラスでは、プレゼンテーションをはじめとする資料の作成を共同で行うことに重点を置き、これがこのコースの特徴でもある。

授業科目名【メディア英語 I, II】

このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。

These classes were particularly useful for teaching the students how to make the most of the Google applications included with their email. In particular, being able to collaborate on presentations and writing was a much-used feature.

これらの授業は、電子メールに付属する Google のアプリケーションを最大限に活用する方法を学生に教えるために特に有効だった。特に、プレゼンテーションや文章作成の際に共同作業ができるのは、非常に便利な機能であった。

授業科目名【英語コミュニケーション I, II】

このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。

This was a hard class for Year 1 students, so we needed to spend a lot of time using Zoom break out rooms for communicative activities.

このクラスは Year1 の生徒にとってはハードなクラスだったので、Zoom breakout room を使ってコミュニケーション活動に多くの時間を割く必要があった。

授業科目名【英語プロジェクト II】

このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。

As this was a 3<sup>rd</sup> Year class, we were able to make full use of the collaborative tools in Zoom, Google Tools, NearPod, Kahoots, MentiMeter, and so on with good results.

今回は 3 年生のクラスということもあり、Zoom、Google Tools、NearPod、Kahoots、MentiMeter などのコラボレーションツールを駆使して、良い結果を出すことができた。

授業科目名【地域プロジェクト】

このコースは、急遽オンライン学習に移行するという同じ問題に直面したため、「英語プレゼンテーション」と同じ評価となった。

In addition, we worked on community projects related to Kitakyushu’s environment, creating slideshows about the Sone Wetlands and translating the city’s karuta Geo Cards. The students went on to present at 第 8 回東田サステイナブル国際会議

さらに、北九州の環境に関するコミュニティプロジェクトにも取り組み、曽根湿地のスライドショーを作成したり、北九州市のかるたジオカードを翻訳したりした。学生たちは、第 8 回東田サステイナブル国際会議で発表を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	会員 第 45 全国語学教育学会 大会研究発表記録集編集長 Website 編集委員	1 9 9 6 年～現在に至る 2 0 2 0 年 1 1 月 2 0 1 0 年 5 月～現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語教育コンソーシアム)	会員	2 0 0 5 年 5 月～現在に至る
Moodlemoot		2 0 2 0 年 1 月～現在に至る
JASAL (Japan Association for Self-Access Learning)	会員	2 0 1 5 年 7 月～現在に至る
Online Teaching Japan	会員	2 0 2 0 年 4 月～現在に至る

2 0 2 0 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
A peer support program for incoming students	共著	2020年8月	JALT PanSIG 2020	This presentation looked at the evolution of a peer support program at Seinan 共同研究者：Andrew Zitzmann
Using Moodle for Online Courses	単著	2020年8月	Online Teaching Japan	A workshop on how to use Moodle for online teaching
Creating a Peer Support program	共著	2020年11月	JALT2020 Online	This was a poster session explaining the ongoing development of our peer support program. 共同研究者：Andrew Zitzmann
Developing Peer Assessment Skills With Moodle	単著	2020年11月	JALT2020 Online	This workshop introduced how to use Moodle for peer assessment.

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Design Skills in the Classroom	単著	2020年11月	Apple ADE Workshop, Tokyo	A workshop for teachers on how to implement design theory into their classrooms
Use of iDoceo for Classroom Management	単著	2021年2月	JALT 北九州	A workshop on using the iDoceo Classroom Management app

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学 外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
梅光学院大学ESSスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2021年2月
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート &スピーチ・コンテスト審査員	2021年3月

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- 教育経費予算配分委員
  - 英語学科の予算委員を担当し、2020年度副委員長となる。
- 情報システム管理運用委員会
  - 英語学科の担当し、2020年度副委員長となる。
- English Lectures (ZIONCUP スピーチコンテストを含む) , Movie Month, Board Games Night, Halloween Event, Christmas Intensive, 卒論のポスターセッションの運営担当を行った。 .
- 英語学科ウェブサイトの管理
  - 英語学科のウェブサイト情報をアップデートするための委員会の責任者となる。
- Moodle サイトを使ったオンライン学習の管理とトレーニング。